

こんにちは  
日本共産党です

# 小学校6年生まで 医療費助成を

『もつと子育てしやすい流山市にしてほしい』『小学校に入ると子どもの医療費がかかって大変』 市民からたくさん要望が寄せられています。6月議会での日本共産党の取り組みを紹介します。

## 月収25万円の家庭で例えれば 千円のやりくりでできる

「今の制度を小学校卒業まで延長した場合、1億3千万円の費用が必要」  
小田桐たかし議員の一般質問に子ども家庭部長が答弁しました。  
小田桐市議は、県内の横芝光町（H18年度一般会計92億円）でも小学校6年生まで実施していることを示し、「本市の一般会計347億円（H18年度ベース）のうち1

億3千万円と言うのは、月収25万円の家庭でいえば937円のやりくりでできる仕事。ぜひ拡充を」と迫りました。  
担当部長は、財政難を理由に、「現時点では難しい」との答弁にとどまりました。

## 『窓口二百円の負担を なくして』—委員会 で陳情を審査

6月議会に、『乳幼児医療費助成の拡充を求める陳情』（提出者 新日本婦人の会流山支部）が提出され、教育福祉常任委員会が審査されました。  
市当局は完全無料のためには3700万円が必要と試算。しかし、当面は対象年齢の拡大に重点をおきたいと、完全無料化を拒否しました。

## 国・県の制度改正で 財政負担減

また、質疑の中で、国が就学前児童の病院窓口負担を引き下げたことや、千葉県の制度が『改正』された結果、市財政の負担は、これまでよりも5400万円（H20年度当初予算ベース）軽減されることが分かりました。



自民、民主、公明が、財政がきびしい中で慎重に検討するべきと陳情に反対する中で、日本共産党は、全国の半数以上の自治体が実施しており、必要な財源は総予算の0.08%。わずかな見直しで実現できると賛成しました。また、委員会では、すべての党派が対象年齢の拡大を求めました。

## 保育手当制度

### 対象年齢の拡充と支給額の増額を

#### 支給額はS52年当時のまま

S52年、公設公営の学童クラブで、保育料（月5千円）の徴収を開始するため、低所得者の負担軽減を目的に制度が創設されました。しかし、学童保育料の値上げや物価等は考慮されず、現在も据え置かれたままです。

そのため、生活保護世帯など低所得者世帯では、子どもが保育所から学童へ変わっただけで、月最高で7千5百円の負担増となります。担当部長は、生活保護世帯で負担が増大することを認めつつ、「財政を考慮し、支給額の増額は難しい」と答弁しました。

#### 託児所に預けたら保育料が月10万円

保育所整備が充分ではないのに、住宅開発を進めた結果、待機児童が急増。やむなく無認可保育所や託児所に子どもを預ける家庭も増加しています。

保護者から「認可保育所に預けたくても一杯で入れず、やむなく無認可に入所している。1歳児で、月額10万円近くになり、何のために働いているのか分からない」との声が聞かれています。

日本共産党は、無認可保育園に子どもを通わせている世帯へ保育手当が支給された過去の事例を示し、「保護者の負担軽減が必要」と指摘。担当部長も、負担軽減は否定できず、「保育ママ制度導入も含め検討したい」と答弁しました。

## 保育手当制度

学童クラブに通う小学1～3年生に、生活保護や現年度分の市民税非課税の世帯に月5千円、それ以外で市民税均等割りのみ世帯は月3千円、市民税所得割が6千円未満の世帯は月1500円をそれぞれ支給。  
H19年度末の利用は61人。

日本共産党流山市議団  
高野 とも 7155-1683  
いぬい紳一郎 7159-2773  
小田桐たかし 7154-0878  
徳増 きよ子 7148-6871  
市議団事務所  
TEL/FAX 7157-6140